



OTの こんな時 どうする？

Vol. 1

認知症の方の過
ごし方

ケース

認知症があり、歩行も一人では危険なAさん。離床のため車椅子に座って一日を過ごしています。車椅子ではいつも何もしておらず、あたりを見渡しては、すれ違う人を眺めています。

ふと立ち上がるとセンサーが鳴り、スタッフに「座っていてくださいね」と声をかけられ再び車椅子に座って過ごします。

こんな時あなたならどうしますか？
OTだからこそできる関わりは何だと思えますか？



①情報収集を深める



作業活動・
自助具班班員

このようなケースはよく見るのですが、理由を伺うと「私だけなにもしてないから何かしようと思って…」とおっしゃられる方もおられる印象があります。
ご本人様が嫌がらなければ、新聞畳みやチラシ箱折などお手伝いを提案してみたらうまくはまるケースもありました。



作業活動・
自助具班班員

昔や入院前にしていた趣味があれば、作業活動として提案してみます。まずは介入と一緒に、徐々にできそうであればおひとりで・・・と日中の余暇時間に没頭できる趣味を探してみてもよいかもしれません。



作業活動・
自助具班班員

離床活動として提供している作業がご本人に合っていない場合もありますね。
趣味や今まで経験したできごとについて知ることや、単純に動きだす理由を聞いてみることも必要ですね。



作業活動・
自助具班班員

この方のプロフィールがわかるものを置く、家族やペットの写真を飾るなど、これまでの生活史を病棟スタッフと共有して、交流のきっかけづくりをするのもいいかもしれません。



作業活動・
自助具班班員

ケースの情報を読むと、すれ違う人を眺めていることから選択的注意と視覚認知が保たれていることがわかります。また座ってくださいで着席することから単純な指示理解が得られることもわかります。見てわかるアクティビティの提供などは病棟での過ごし方として、本人の状況にマッチしているように思います！

確かに！色んなことを提示してみて
反応のいいものを発見しようとおもいます！

質問者





作業活動・
自助具班班員

認知症の方の「社会性が保たれている場合が多い」といういい点が良い方向に関わるような配慮と工夫は必要かと思います。例えばこちらが手短に済ませようとふるまう様子が見透かされていることもよくあると感じています。声のかけ方などは、目線を合わせてゆっくりと話し、親身になる姿勢を持つことが重要です。



作業活動・
自助具班班員

すれ違いに挨拶をするなど、介入中でなくてもちょっとしたタイミングであいさつを何度でも行うといいですね！会釈やジェスチャーだけでもいいので、周囲の人とのコミュニケーションが増えるだけで安心につながるのではないのでしょうか。

自分の仕事で一杯で、コミュニケーションが
おざなりになっていたかもしれません……
早速明日から挨拶からしてみます！

質問者





新聞紙⑦ キノコの飾り

QR

最初の行程は補助がいりますが、後半は簡単に製作できます



新聞紙⑤ 新聞のお星さま

QR

年中使える星のモチーフです



袋②しゅたっと立つ体操選手

QR

談話室や食堂で他患者と一緒に楽しめたらいいですね！



段ボール⑦(編み物)

QR

編み物をご趣味の方に合うかも



袋⑤ ビニール袋造花

QR

きれいな作品で関わりを円滑に引き出すきっかけに